



委員会活動報告 先進地などへ視察調査

総務常任委員会

公共交通について 8月19日 静岡県富士宮市
公共施設マネジメントについて 8月20日 静岡県焼津市

富士宮市では、公共交通の現況と今後の姿勢、動向について視察しました。同市では、民間のバスと乗り合い型タクシーと市営バスである「宮バス」との三者の相互補完体制で、市内の公共交通網を構築し運営しています。



更に「持続可能性」を重視し、利用者側である市民の自覚を促す目的を込めて「バス停オーナー制度」を導入し、オーナーとなった方にバス停の命名権を付与して協力金を頂くなど、市民参加の取り組みも行っています。

当市でも、この「市民参加」への取組を積極的に展開する必要性を感じ、今後の動きに期待します。

焼津市では、公共施設マネジメントについて視察、学習しました。同市において、築後30年から45年を経過している公共施設が多く

早急な対応が課題となっています。

そこで、「①大方針」→「②体制構築」→「③評価」→「④個別方針」→「⑤実践」の手順で対応を開始しています。市民にも、シンポジウムや広報紙等を通して、周知、理解を進めています。これらの一連の動きを通して、効率的かつ持続可能な公共施設の在り方を具体的に検討しています。

当市においても、各公共施設の更なる有効活用、公共施設跡地の次の展開等検討すべき課題があります。焼津市で学ばせていただいたように、常に具体的に検討し対応していかなければならないと考えます。同時に、市民に対して周知を徹底し、公共施設に見る当市の未来の姿に対して、市と市民が共通の理解を持つことが大切であると思います。



文教厚生常任委員会

小中一貫教育について 7月23日 新潟県十日町市
図書館事業について 7月24日 長野県小布施町

十日町市では、小中一貫教育について視察しました。十日町市教育委員会では、子どもの減少、学校の小規模化が進む現状に鑑み、新しい形態としての学校「小中一貫教育」を平成26年度から実施しており、学力の向上、不登校児童生徒の減少等が図られ、スムーズに展開されていました。



小中一貫教育は、前期(小学1～4年)、中期(小学5年～中学1年)、後期(中学2～3

年)に区分され、中期に重点が置かれています。時間割も各教科や学習活動の特質に応じ、弾力的な組み替えも行っています。9年間を通して児童生徒の育ちを見つめ、考えるこの教育形態では、中学校入学に対する不安の解消や好きな授業が増える等の学校生活や学習に対する意識改善につながっていました。

一方で、保護者や地域住民を巻き込んだ小中一貫教育のさらなる推進が求められているようです。当市においても、学校の在り方や小中一貫教育の取組について、検討の余地があると考えます。